

## 【教職員】

- ① 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(88.6%/昨年度 73%)

昨年度から 15.6 ポイント上昇しており、教職員間で教育活動について話し合う機会が大きく充実している。

日常的な情報共有や意見交換が進み、組織として教育活動に取り組む意識が高まっていると考えられる。

今後も対話の機会を大切に、話し合った内容を具体的な教育活動の改善につなげていきたい。

- ② 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(88.6%/昨年度 76%)

昨年度より 12.6 ポイント上昇しており、学校評価を次年度の計画につなげる取組が進んでいる。

教育活動を振り返り、成果と課題を次の実践に生かす PDCA サイクルが定着しつつあると考えられる。

今後は評価結果を具体的な改善策や数値目標に結び付け、さらに実効性を高めていきたい。

- ③ カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(72.7%/昨年度 86%)

昨年度から 13.3 ポイント低下しており、今回の結果の中でも特に注意が必要な項目である。

生徒の気持ちを受け止め、共感的に理解しながら関わることについて、教職員間で認識に差がある可能性が考えられる。

研修や事例検討等を通して、生徒理解や教育相談に関する共通理解と実践力を高めていきたい。

- ④ 生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。  
(93.2%/昨年度 76%)

昨年度から 17.2 ポイント上昇し、今年度の項目の中で最も高い肯定率となっている。

生徒一人ひとりの実態を踏まえた進路指導について、教職員が高い意識をもって取り組んでいることがうかがえる。

今後も学年・分掌・家庭等との連携を図りながら、発達段階に応じた継続的なキャリア教育を進めたい。

- ⑤ いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。(88.6%/昨年度 83%)

昨年度より 5.6 ポイント上昇しており、いじめへの組織的な対応体制について改善が見られる。

多くの教職員が対応体制を肯定的に捉えている一方、全員の共通理解をさらに高める余地もある。

いじめの早期発見・情報共有・初期対応の手順を改めて確認し、組織的かつ迅速な対応を徹底したい。

⑥ 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(88.6%/昨年度 83%)

昨年度より 5.6 ポイント上昇しており、校内の教育相談体制は教職員から概ね肯定的に評価されている。

一方、生徒アンケート⑤の「担任以外にも相談できる先生がいる」は 74%であり、教職員の認識との隔たりが見られる。

体制を整えるだけでなく、相談先の周知や日常的な関係づくりを進め、生徒が実際に相談しやすい環境につなげたい。

⑦ 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。(88.6%/昨年度 93%)

昨年度から 4.4 ポイント低下したものの、肯定率は 88.6%と比較的高い水準を維持している。

一方、生徒アンケート⑦「学校行事は有意義で楽しい」も昨年度 89%から 83.6%へ低下しており、双方に同様の傾向が見られる。

生徒の意見を取り入れながら、主体性や達成感をより感じられる行事の内容・運営を検討していきたい。

⑧ 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(90.9%/昨年度 80%)

昨年度から 10.9 ポイント上昇し、情報発信に対する教職員の意識が大きく高まっている。

学校から生徒・保護者・地域への情報提供や周知の取組が充実してきた成果と考えられる。

今後も情報の内容だけでなく、発信する時期や方法を工夫し、より確実に伝わる情報発信を進めたい。

⑨ 令和 7 年度、生徒 1 人 1 台端末等、ICT を活用した授業を行った。(86.4%/昨年度 80%)

昨年度より 6.4 ポイント上昇しており、ICT を活用した授業実践が着実に広がっている。

生徒アンケート⑧でも「先生は端末を効果的に活用している」が 93.7%と高く、生徒からも肯定的に評価されている。

今後は ICT の使用そのものではなく、個別最適な学びや協働的な学びにつながる効果的な活用をさらに進めたい。

⑩「主体的で対話的な深い学習」を授業に取り入れている。(81.8%/昨年度 80%)

昨年度より 1.8 ポイント上昇しており、一定の取組が継続されているものの、他項目と比べるとやや低い結果である。

一方、生徒アンケート⑩では対話やディスカッションを活用した授業への肯定率が 90.9%であり、取組は生徒にも実感されている。

今後は「対話」にとどまらず、生徒が自ら考え、学びを深める授業づくりについて教科を越えて共有していきたい。

⑪ 教員間での(相互)授業見学を行った。(54.5%/昨年度 53%)

昨年度より 1.5 ポイント上昇したものの、54.5%と全項目の中で最も低く、授業改善に向けた課題となっている。

校務や時間確保の難しさなどから、教員同士が授業を見合う機会が十分に確保できていないことが考えられる。

短時間の授業参観や公開授業など参加しやすい仕組みを整え、互いの実践から学ぶ機会を増やしていきたい。

全体としては、「教職員間の話し合い」「学校評価」「進路指導」「情報発信」「ICT 活用」など、多くの項目で昨年度を上回っており、学校全体として改善が進んでいることが読み取れます。一方で、③カウンセリングマインドが大きく低下し、⑪相互授業見学も依然として低いことから、今後は「生徒理解・教育相談」と「教員同士が学び合う授業改善」を重点課題として位置付けることが考えられます。

また、生徒アンケートと合わせて見ると、教職員側では相談体制を高く評価している一方、生徒側、特に 2 年生では相談や教員との関係に関する肯定率が低いという点が重要です。「体制がある」と「生徒が相談しやすいと感じている」ことの差を埋める取組が、今後の学校改善の一つのポイントになりそうです。

## 【生徒】

### ① 学校生活は楽しい。(全体 85.2%/昨年度 82%)

全体では 85.2%と高く、昨年度より 3.2 ポイント上昇しており、学校生活への満足度は良好である。

特に 1 年生は 89.1%と高い一方、2 年生は 80%と他学年より低い。

今後は 2 年生の学校生活上の悩みや負担感を把握し、より充実感を得られる取組を進めたい。

### ② 学校生活に関する先生の指導は納得できる。(全体 71.4%)

1 年生は 83%と高いが、2 年生は 61.5%、3 年生は 68.7%で、学年間の差が大きい。

全体としても他の項目と比べて肯定率が低く、特に 2 年生への指導の在り方を検討する必要がある。

指導の意図や理由を丁寧に説明し、生徒が納得して行動できるような対話的な指導を充実させたい。

### ③ 将来の進路や生き方について考える機会がある。(全体 86.7%)

全体で 86.7%と高く、特に 3 年生は 93.3%と非常に高い結果となっている。

進路選択を控えた 3 年生に対する進路指導やキャリア教育が、一定の成果を上げていると考えられる。

1・2 年生でも 8 割を超えており、今後も発達段階に応じて継続的に将来を考える機会を設けたい。

### ④ 先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(全体 87.8%/昨年度 90%)

全体では 87.8%と高いものの、昨年度より 2.2 ポイント低下している点には注意が必要である。

1 年生 92.5%、3 年生 91.3%に対し、2 年生は 78.5%と大きく低下している。

特に 2 年生の不安や認識を丁寧に把握し、相談しやすい環境づくりと迅速・誠実な対応を徹底したい。

### ⑤ 担任以外にも、保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。(全体 74%)

全体では 74%にとどまり、約 4 人に 1 人が肯定的に捉えていないことが課題である。

学年間の差は比較的小さいが、2 年生が 71.5%と最も低くなっている。

相談できる教職員や相談場所を改めて周知するとともに、日頃から生徒と教職員の関係づくりを進めたい。

⑥ 命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある。(全体 91.6%/昨年度 92%)

全体で 91.6%と非常に高く、昨年度の 92%とほぼ同水準を維持している。

全学年で 90%以上となっており、道徳教育や学校生活を通した指導が生徒に浸透していると考えられる。

今後も実生活と結び付けながら、命や規範意識について主体的に考えられる学習を継続したい。

⑦ 学校行事は有意義で楽しい。(全体 83.6%/昨年度 89%)

全体では 83.6%と高いものの、昨年度から 5.4 ポイント低下していることが気になる。

特に 2 年生が 72.3%と低く、1 年生 91.8%、3 年生 85.3%との差が大きい。

行事の内容や生徒の関わり方を振り返り、生徒が達成感や楽しさを実感できる企画・運営を工夫したい。

⑧ 先生は生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用している。(全体 93.7%/昨年度 86%)

全体で 93.7%と非常に高く、昨年度から 7.7 ポイント上昇しており、大きな改善が見られる。

全学年で 90%以上となっていることから、ICT を活用した授業が日常的に定着していると考えられる。

今後は端末を使うこと自体ではなく、思考・表現や協働的な学習につながる活用をさらに充実させたい。

⑨ 授業の内容はわかりやすい。(全体 85.2%/昨年度 75%)

全体では昨年度から 10.2 ポイント上昇しており、授業改善の成果が大きく表れている。

一方、1 年生 92.5%、3 年生 86%に対して 2 年生は 76.2%と、学年間で大きな差が見られる。

2 年生のつまずきや学習状況を分析し、個に応じた支援や「わかる・できる」を実感できる授業改善につなげたい。

全体的な傾向としては、ICT 活用や授業のわかりやすさに大きな改善が見られる一方、2 年生の肯定率が多く  
の項目で低いことが特徴的です。特に「先生の指導への納得」「いじめへの対応」「学校行事」「授業のわかり  
やすさ」は、2 年生の実態を詳しく把握する必要があります。また、相談体制の認知・活用についても全校的な課  
題として捉え、生徒との対話、相談しやすい人間関係づくり、2 年生への重点的な支援を今後の改善につなげる  
ことが重要と考えられます。

⑩ グループでの対話や相談、ディスカッション等を活用する授業が取り入れられている。(全体 90.9%/昨年度 88%)

全体で 90.9%と高く、昨年度より 2.9 ポイント上昇しており、対話的な学習が定着していることがうかがえる。

特に 1 年生は 95.9%と高い一方、2 年生は 85.4%とやや低く、学年間に差が見られる。

今後も、生徒同士が考えを伝え合い、学びを深められるような協働的・対話的な授業づくりを進めたい。

⑪ 各教科の評価法（成績のつけ方）について理解している。（全体 89%／昨年度 84%）

全体では昨年度から 5 ポイント上昇しており、評価方法についての理解が進んでいると考えられる。

1 年生 93.2%、3 年生 91.3%に対し、2 年生は 81.5%とやや低い結果となっている。

評価基準や評価方法をより具体的に示し、生徒が学習の見通しをもって取り組めるようにすることが大切である。

⑫ 先生は、自分の悩みや相談に親身になって応じてくれる。（全体 85.2%／昨年度 85%）

全体では 85.2%で、昨年度とほぼ同水準を維持しており、多くの生徒が教員の対応を肯定的に捉えている。

一方、1 年生 87.8%、3 年生 91.3%に対して、2 年生は 75.4%と大きな差が見られる。

特に 2 年生が気軽に相談できる関係づくりを進め、生徒の小さな変化や悩みを捉える教育相談体制を充実させたい。

⑬ 基本的な生活習慣が確立できている。（全体 83.6%／昨年度 82%）

全体では昨年度より 1.6 ポイント上昇しており、基本的な生活習慣について一定の改善が見られる。

1・3 年生は 86%台である一方、2 年生は 76.9%と低く、生活習慣の面でも学年間の差が表れている。

家庭とも連携しながら、睡眠・食事・時間管理などを含め、自ら生活を整える意識を高めていきたい。

⑭ 先生や外部からのお客様に対してあいさつができたり、敬語が使えている。（全体 90.2%／昨年度 92%）

全体では 90.2%と高い水準にあるものの、昨年度から 1.8 ポイント低下している。

学年間の差は小さく、全学年がおおむね 90%前後であることから、基本的な礼儀やマナーは定着していると考えられる。

今後も日常生活の中であいさつや適切な言葉遣いを意識させ、学校全体で継続して取り組みたい。

⑮ 生徒会活動・委員会活動・HR 活動は活発に行われている。（全体 88.3%／昨年度 89%）

全体では 88.3%と高いものの、昨年度から 0.7 ポイント低下しており、ほぼ横ばいの結果となっている。

3 年生は 92%と高い一方、2 年生は 82.3%と低く、活動への実感や関わり方に差があることがうかがえる。

生徒一人一人が役割や達成感を感じられるよう、生徒主体の活動や意見を生かす場面をさらに増やしていきたい。

今回の⑩～⑮でも、前半の項目と同様に「2 年生の肯定率の低さ」が共通した特徴として表れています。特に⑫「先生への相談」は他学年との差が大きいため、学習面だけでなく、教員との関係性や相談のしやすさ、学校生活全般について 2 年生の実態を丁寧に把握することが重要だと考えられます。

## 【保護者】

### ① 子どもは、学校生活を楽しんでいる。(全体 92.1%／昨年度 94%)

全体では 92.1%と高い水準を維持しているものの、昨年度から 1.9 ポイント低下している。

3 年生 96.6%、1 年生 93.4%に対し、2 年生は 87.8%とやや低く、学年間に差が見られる。

生徒アンケートでも 2 年生の学校生活への肯定率が低いことから、その背景を丁寧に把握し、学校生活の充実につなげたい。

### ② 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。(全体 75.7%／昨年度 72%)

昨年度より 3.7 ポイント上昇しており、授業改善の成果が保護者にも一定程度伝わっていると考えられる。

一方、1 年生 81%、3 年生 78.6%に対して 2 年生は 68%と低く、学年間の差が大きい。

生徒アンケートでも 2 年生の「授業のわかりやすさ」が低いため、2 年生を中心に学習状況を分析し、授業改善を進めたい。

### ③ 学校の生徒指導の方針に、共感できる。(全体 82.7%／昨年度なし)

全体では 82.7%と、保護者の多くから学校の生徒指導方針について理解・共感を得られている。

1 年生 86.4%、3 年生 85.2%に対し、2 年生は 76.6%とやや低い結果となっている。

生徒指導の目的や考え方を保護者へ丁寧に発信し、家庭と学校が共通理解をもって生徒を支援できるようにしたい。

### ④ 学校では一人ひとりの適性に応じた進路指導がなされている。(全体 83.5%／昨年度 72%)

昨年度から 11.5 ポイント上昇しており、進路指導に対する保護者の評価が大きく改善している。

特に 3 年生は 92.6%と高く、進路選択を迎える学年でのきめ細かな支援が評価されていると考えられる。

今後も早い段階から進路情報を提供し、生徒・保護者と連携した継続的な進路支援を充実させたい。

### ⑤ 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(全体 88.1%／昨年度 75%)



昨年度から 13.1 ポイント上昇しており、いじめへの学校の対応について保護者からの信頼が大きく高まっている。

一方、1 年生 92.5%、3 年生 91.7%に対して 2 年生は 80.5%であり、学年間の差が見られる。

今後も迅速な対応と丁寧な情報共有を徹底するとともに、特に 2 年生の生徒・保護者が安心できる体制づくりを進めたい。

⑥ 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。(全体 92.6%/昨年度 84%)

昨年度より 8.6 ポイント上昇し、全体で 92.6%と非常に高い評価を得ている。

全学年で 90%を超え、特に 3 年生は 100%となっており、学校の取組が保護者にも十分伝わっていると考えられる。

今後も道德教育や日常の教育活動を通して、生命尊重や規範意識を育む取組を継続していきたい。

⑦ 学校は、教育情報について、提供の努力をしている。(全体 85.4%/昨年度 81%)

昨年度から 4.4 ポイント上昇しており、学校からの情報発信について一定の改善が見られる。

3 年生は 96.3%と非常に高い一方、2 年生は 77.8%であり、情報提供への受け止め方に差がある。

発信内容や時期、媒体などを工夫し、どの学年の保護者にも必要な情報が確実に届くよう改善していきたい。

⑧ 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。(全体 76.3%/昨年度 78%)

全体では昨年度から 1.7 ポイント低下しており、他の項目と比較しても肯定率はやや低い。

1 年生 80.3%に対して 2 年生 72%、3 年生 75%となっており、学年によって参加状況に差が見られる。

保護者が参加しやすい日程や内容、情報提供の方法を工夫し、学校教育への理解や連携を深める機会を増やしたい。

全体としては、進路指導、いじめへの対応、生命尊重・規範意識、教育情報の提供など、多くの項目で昨年度を上回っており、学校の取組に対する保護者の評価は改善傾向にあります。特に④⑤⑥は上昇幅が大きく、学校の取組が保護者にも伝わっていることが成果として挙げられます。

一方で、今回も 2 年生保護者の肯定率がほぼすべての項目で他学年より低いことが大きな特徴です。これは生徒アンケートでも見られた傾向と一致しているため、単なる回答上のばらつきとしてではなく、2 年生の学校生

活・授業・生徒指導・相談体制等について重点的に実態把握を行うことが、今後の学校改善を考える上で重要だと考えられます。